【様式1】
令和５年度　授業改善推進プラン

東久留米市立西中学校　第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）	次年度に向けた自己評価 （A・B・C）
国語	Ｒ５年度児童・生徒の学力向上を図るための調査における学習の進め方についての問いの中で、他者の話を理解するためにメモを取ったり、文章の内容を理解するために線を引いたりする生徒が約５割であった。このことから内容を理解するための学習の進め方について課題が見られる。	学習を進めるにあたり考える手順を細かく示す等、指示を明確にする。また、細かく示すことでスモールステップで課題解決に取り組み、「できた」という達成感を積み重ねられるようにする。以上のことを実践することで、理解するための学習の進め方について肯定的な回答をする生徒を６割以上に引き上げる。	
数学	計算分野での正答率を見ると、係数が整数の場合が7割以上であるのに対し、分数や小数になると5割を切ってしまうことが明らかとなった。10の累乗や公倍数の概念や取り扱いを苦手とする生徒が多いことが原因である。また文章問題に関しては読解力不足が判明した。速さに関する問題では、情景や条件を理解しなければ解けない深い読解力を必要とする問題の正答率は2割に満たない。	方程式解法の鍵は、等式の性質の理解と活用にある。容易に解法につなげるための手段として、どのような方法があるのかを考えさせる。係数の整数化への手段を文章等で説明させるトレーニングが有効と考える。また、文章題の読解力を向上させるために、リスニング形式で出題してイメージ力を向上させ、図・絵・表などの作成を自分の力で作成できる演習を行う。	
外国語（英語）	パフォーマンステストは、概ね9割以上の生徒が意欲的に取り組み、意欲的にコミュニケーション活動に取り組めている。 考査では知識・技能がB以上の生徒が７割以上に達しているが、思考・判断・表現については半数がB評価に達していない。既習事項を活用し、正確に表現することに課題が見られる。	授業の帯活動を工夫し、多様な表現活動を取り入れる。ワークやドリル練習を通して既習の英文法の要点の定着を図り、正確に表現できる力を身に着けさせる。考査で思考・判断・表現の問題の正答率を上げる。普段の授業の形成的評価を適宜行うことで、生徒自身が自己調整できるよう指導する。	
理科	授業の予習をしている生徒が１０％、復習をしている生徒が３３％と、どちらも前年比で減少している。 考査において、思考・判断・表現を問う問いの正答率が半数以下であり、知識を活用して考える問いに苦手意識を抱えている生徒が多い。計算を伴う内容について、立式することに課題が見られた生徒が半数ほどであった。	学習内容の定着に向けて、家庭学習の重要度は高い。習慣になるよう、学習した内容のワークに取り組むなど、方法を提示していく。 思考・判断・表現の力が高まるよう、個々で文章表現などする機会を設ける。また、計算課題には難易度の段階を作り、取り組みやすくする。	